

横浜市環境管理計画 2018年度の推進状況 について（報告）

- 毎年度、横浜市環境管理計画の推進状況を、年次報告書「横浜の環境」としてまとめています。
- 本日御意見をいただき、年内に公表していきます。

1 年次報告書「横浜の環境」編集の考え方

- 横浜市環境の保全及び創造に関する基本条例第20条に基づき、横浜の環境の状況と、環境分野の総合計画である環境管理計画に基づき実施された施策の状況等をまとめ、公表
- 環境管理計画に掲げる基本政策、基本施策ごとに、環境の状況を示すデータや、主な取組の実績・成果を記載
- 図表や写真を多く掲載し、視覚的にわかりやすく、市民に親しみやすい冊子及び概要版を作成

2 横浜の環境の状況

- 市の総合計画である横浜市中期4か年計画で、「花と緑にあふれる環境先進都市」や「未来を創る強靱な都市づくり」が主要な政策として掲げられ、ガーデンシティ横浜やグリーンインフラを活用した浸水対策等の環境施策を推進。
- 環境管理計画と、地球温暖化対策実行計画・横浜みどりアップ計画・ヨコハマ3R夢プラン推進計画などの分野別計画に基づき、多様な主体と連携しながら総合的に取組を推進。
- SDGs未来都市として（2018年6月選定）、ヨコハマSDGsデザインセンターを創設。ヨコハマ・ウッドストローププロジェクトなど、環境・社会・経済面で効果が期待される取組を展開。
- 温室効果ガス排出量は20.9%減（2013年度比）と着実な成果が出ているほか、緑地の保全や豊かな海づくりなど生物多様性保全につながる取組も進展。
- 環境に関心があり行動している市民の割合は約8割。経営戦略などに環境への配慮や目標を盛り込んでいる企業は、大企業で7.5割、中小企業で3割弱（環境に関する市民・企業意識調査の結果から）。

3 環境管理計画の推進状況

(1) 総合的な3つの視点による基本政策

環境と人・地域社会 環境にやさしいライフスタイルの実践や地域の環境活動を支援

- 公園や水辺、市民の森などでは、愛護会などの環境活動団体により、良好な環境の保全活動が実施されている
- スポーツチームや環境活動団体等と連携した、親しみやすく分かりやすい広報による普及啓発など、多くの市民の環境にやさしいライフスタイルの実践につなげる取組を推進



公園愛護会向けの講習会（中区）



横浜環境活動賞の表彰：12団体

表 環境活動団体数	(年度末時点)
公園愛護会	2,482 団体
水辺愛護会	94 団体
市民の森愛護会	31 団体
ふれあいの樹林愛護会	12 団体
森づくり活動団体	31 団体
よこはま緑の推進団体	848 団体
ハマロードサポーター	514 団体

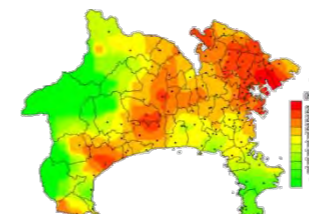
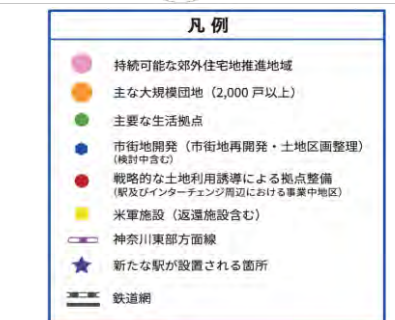
環境と経済 環境分野の取組による市内経済の活性化と地域の賑わいづくりを推進

- 環境・エネルギー分野での需要拡大に向け、市民・事業者に対する省エネ設備・機器などの導入促進、燃料電池自動車の普及促進等を推進
- 上下水道や廃棄物などの分野での市のノウハウと市内企業等の環境技術を生かし、新興国の課題解決を支援するとともに、市内企業の海外インフラビジネス展開を支援
- 美しい都市景観や緑豊かな里山などを生かしたイベント開催などにより、さらなる魅力・賑わいを創出し、街の活性化に寄与

横浜市が所有する燃料電池自動車（FCV）
：市内のFCV登録台数 122台浸水多発エリア調査
(ベトナム国ハノイ市)

環境とまちづくり 環境と調和・共生した、環境にやさしく災害に強いまちづくりを推進

- 鉄道や道路などの交通ネットワークや自転車利用環境の整備等の環境にやさしい交通・物流環境の形成や、郊外部で「持続可能な住宅地推進プロジェクト」によりコンパクトで活力あるまちづくりを推進
- 豊かな海づくりに向けて、沿岸や下水道施設等でのマイクロプラスチック調査などを推進
- 熱中症対策、緑化や省エネ、日傘の普及啓発等の暑さ対策を推進
- 雨水幹線等の整備に加え、グリーンインフラを活用した浸水対策等の災害に強いまちづくりを推進

2018年8月の30℃以上の延べ時間数
(出典)：神奈川県ウェブページ横浜都心部コミュニティサイクル
：登録者数92,203人マイクロプラスチック調査
：水再生センター3か所実施図 郊外部活性化のまちづくり
(出典)：横浜市中期4か年計画2018～2021

ガーデンシティ横浜の推進

全国都市緑化よこはまフェア（2017年開催）の成果を継承し、ガーデンシティ横浜を推進するリーディングプロジェクトである「ガーデンネックレス横浜」を市民・企業と連携して、展開しています。



みなとエリア



里山ガーデン

全市的な展開
(港北オープンガーデン)

《ガーデンネックレス横浜2018 開催概要》

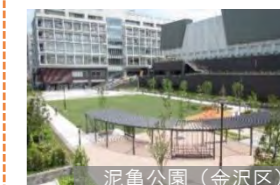
開催期間：2018年3月24日～6月3日、9月15日～10月14日

市内産の花の使用：春 2.4万株（全体の約51%）秋 4.3万株（同約72%）

グリーンインフラを活用した浸水対策

自然が有する雨水の保水・浸透機能に着目し、気候変動の影響と考えられる局地的な大雨などによる被害の回避・軽減に向けて、公園、道路、農地を活用した取組を推進しています。

《取組事例》雨水貯留・浸透機能を高めた公園・道路の整備



泥亀公園（金沢区）



歩道の整備（青葉区）

(2) 環境側面からの7つの基本施策

地球温暖化対策

<環境目標の達成状況>

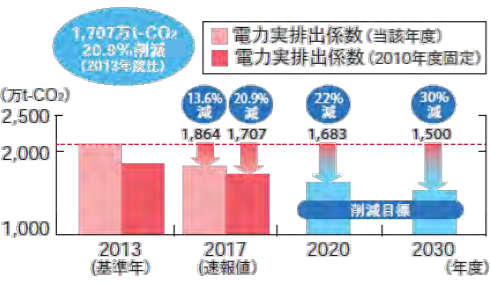
- ・温室効果ガス排出量：1,707万t-CO₂ (2013年度比 20.9%減)
- ・エネルギー消費量：229 PJ (2013年度比 9.7%減)



東北地方12市町村と再エネに関する連携協定締結



省エネ住宅普及啓発アカデミー開催



水とみどり

<環境目標の達成状況>

- ・緑被率：28.8% (2014年度)
- ・緑地保全制度による新規指定：50.0 ha
- ・宅地内雨水浸透ます等設置助成：141件
- ・公園等への雨水浸透ます設置：17,011個 (年度末時点)



市沢町特別緑地保全地区 (旭区)

表 水・緑環境の状況 (年度末時点)	
都市公園	2,689 公園
街路樹	132,264 本
近郊緑地保全区域	1,096 ha
近郊緑地特別保全地区	194 ha
特別緑地保全地区	487 ha
横浜自然観察の森	45 ha
市民の森	547 ha
緑地保存地区	211 ha
源流の森保存地区	238 ha
水辺拠点	40 か所

都市農業

<環境目標の達成状況>

- ・市民、企業と連携した地産地消の推進：取組数43件
- ・市内産農畜産物の購入機会の拡大：直売所の支援等51件
- ・良好に維持されている農地面積：660.8 ha (年度末時点)
- ・市民ニーズに合わせた農園面積：81.1 ha (年度末時点)



生産者と飲食店の交流会 (中区)

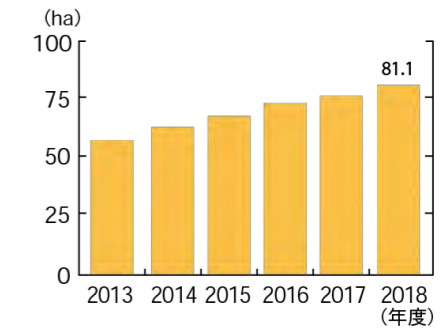


図 市民ニーズに合わせた農園面積の推移

生物多様性 生物多様性横浜行動計画(ヨコハマプラン)

<環境目標の達成状況>

- ・緑地保全制度による新規指定：50.0 ha
- ・地域や国内に生息する希少動物の保全・繁殖を推進
- ・生物多様性に配慮した市民団体や企業への表彰：12団体



「ミゾゴイ」など希少動物の保全



小学生が参加する生き物調査：参加者11,517人

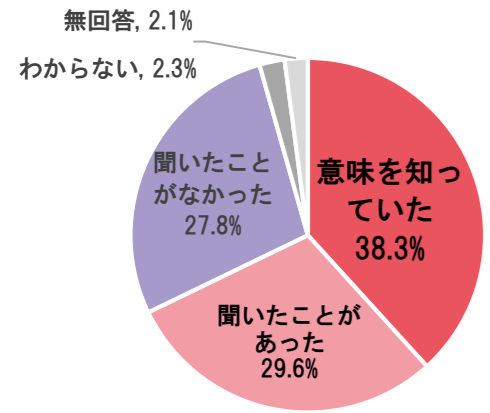


図 生物多様性の認知度 (出典) 2019年環境に関する市民意識調査

資源循環

<環境目標の達成状況>

- ・ごみと資源の総量：119.5万t (2009年度比 6.3%減)
- ・ごみ処理に伴う温室効果ガス排出量：29.1万t-CO₂ (2009年度比 3.2%増)
- ・産業廃棄物最終処分量：21.9万t (2017年度)
- ・災害廃棄物に関する協力協定：新規3件、内容追加1件



区民まつりでのリユース食器の活用 (戸塚区)

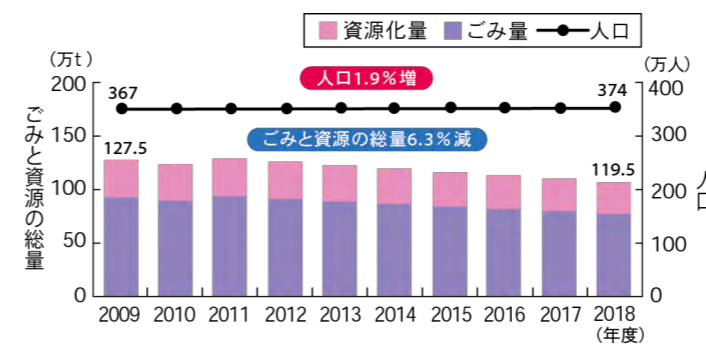


図 ごみと資源の総量及び人口の推移

生活環境

<環境目標の達成状況>

- ・主な項目の環境基準達成状況 (○/○は達成地点数/調査地点数)
- <大気> 二酸化窒素 14/28※、光化学オキシダント 0/19
- <水質> 河川：BOD 20/21 海域：COD 5/7 全窒素 6/7 全りん 5/7
- <新幹線騒音> 16/24
- <道路交通騒音(面的評価)> 91%
- ・光化学スモッグ注意報発令：4回/年
- ・生物指標による水質評価：33/38

※環境基準の下限値(1時間値の日平均値0.04ppm)で評価、上限値には全地点で達成

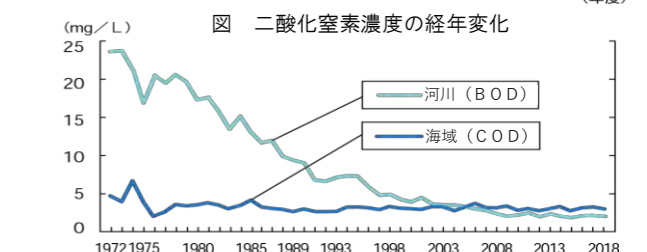
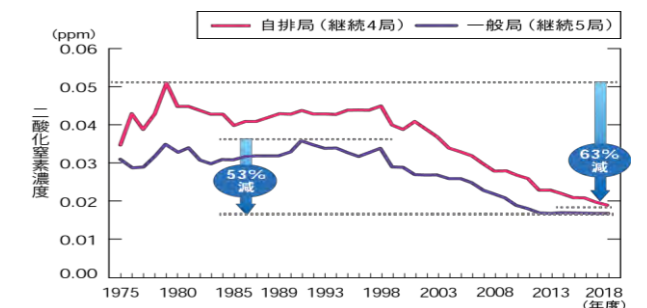


図 河川・海域の水質経年変化

環境教育・学習 環境教育等行動計画

<環境目標の達成状況>

- ・環境に関心があり、行動している市民：82.1%
- ・食品ロス削減講習会参加者：約2,500人
- ・環境教育出前講座参加者：7,165人
- ・学校教育におけるESDの推進：22校



ボランティアによる花壇整備 (青葉区)



環境教育出前講座 ビオトープでの生き物観察

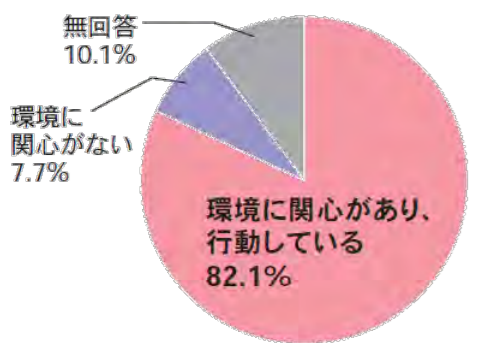


図 環境に関心があり、行動している市民の割合 (出典) 2019年環境に関する市民意識調査